

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 浜松市

上位関連計画にみる地域の将来
 ○浜松市エネルギービジョン2011年策定
 ・エネルギー自給率 計画時：4.3%（2011年度） 現状：14.9%（2018年度末速報値）⇒目標：20.3%（2030年度）
 ・バイオマス発電導入量 現状5.2万MWh（2010年度）⇒目標：11.4万MWh（2.2倍）（2030年度）
 ○浜松市環境基本計画2015年策定 バイオマス活用率 現状：67%（2011年度）⇒目標：78%（2024年度）
 ○総合計画（環境・エネルギー分野）指標＝電力自給率 現状：6.6%（2013年度）⇒目標：17.6%（2024年度）
 ○総合計画（政策シート・資源循環社会の構築）＝リサイクル率 現状：19.1%⇒目標：30.1%（2024年度）

②具体的なアクション
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

 【浜松市】 木質バイオマス利用の周知、導入サポート（専門家の助言指導など）、導入における情報提供・補助金
 【林業関係者】 安定した材料の供給
 【燃料・機器製造者】 安定した燃料・機器の供給及び情報の発信、エネルギーサービスによる設備導入スキームの構築
 【需要家】 情報の収集、導入における検討

①目指すべき姿
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ”地域で使うエネルギーを、地域でつくり、地域で賢く使う”

 浜松市は、北部の広大な中山間地域と南部の都市部があり、環境・エネルギーの視点からみると、豊かな再生可能エネルギー資源を有するとともに、多くのエネルギー消費需要を有する都市と言えます。
 本市において、再生可能エネルギー由来のエネルギー（電気、熱）を地産し、地域で賢く使いこなすことが、安全安心なまちづくりのみならず、市民生活の質の向上のほか、農林水産業や商工業など地域産業の活性化にも寄与すると考えています。
 さらには、環境面においても、脱炭素化に向けて、地域全体を巻き込んだ地域循環共生圏づくりにおいても寄与するものです。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	自然共生社会	F S C 認証林面積	45,270	48,900		ha
経済	バイオマス設備導入	需要家へのヒアリング実施件数	5	8		箇所
		木質バイオマスを利用した機器導入検討事業所数	1	5		事業所
社会	木質バイオマスに対する市民の関心度向上	セミナー・無料相談会参加者	59	80		人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	実績値	単位
環境	脱炭素社会	温室効果ガス排出量	4,928	4,037	2030年度		t-CO2
	自然共生社会	F S C 認証林面積	45,270	54,000	2037年度		ha
経済	地域資源の域内循環促進	エネルギー自給率	14.9	20.3 ※上方修正予定	2030年度		%
		バイオマス設備導入	木質バイオマスを利用した機器の導入件数（累計）	7	17	2030年度	
			木質バイオマス燃料製造拠点	0	1	2030年度	
		木質バイオマス燃料製造量	0	6,000	2030年度		t/年
社会	木質バイオマスに対する市民の関心度向上	木質バイオマスに対する認識度	46.4	60.0	2030年度		%
		新規雇用	木質バイオマス燃料製造拠点における新規雇用創出	0	5	2030年度	
	バイオマス産業観光	バイオマス産業観光施設数 (次世代エネルギーパーク指定施設数)	3	10	2030年度		施設

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

”地域で使うエネルギーを、地域でつくり、地域で賢く使う”ためには、地域資源を把握し、再生可能エネルギーへの理解度を高め、関係者間のマッチングや地域理解の促進を図る必要がある。
 そのため、セミナーや無料相談会を開催することで市民の認識度を高めるとともに、川上から川下までの関係者が一体となって取り組むことのできる場を提供する。
 特に、需要家を増やすことと、原料となる材の調達が大きな課題である。需要家の拡大については、短期では、発掘、事業検討を進め、事業性を考慮した中で、導入、長期持続的な運用を促進する。また、材の調達は、森林資源の適正管理を進めることで、将来的な燃料材の確保につなげる。
 さらには、再生可能エネルギーを域内でつくり、地産地消することでエネルギー自給率が向上し、化石燃料の使用を削減することで域内の温室効果ガスの削減につなげる。